

## I 実践

### 1 研究主題

思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童の育成

#### (1) 主題設定の理由

本校では、校訓を「ただしく ゆたかに たくましく」とし、「心ゆたかにたくましく、夢や希望をもってただしく学ぶ児童の育成」を教育目標としている。校訓の「ゆたかに」では、「思いやりの心の育成」を目指している。

本校の児童は、明るく元気であり、やさしさをもって相手に接している様子が見られる。しかし、時に自己中心的となり、友達を傷つけるような発言や行動をとってしまうこともある。そこで、思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童を育成したいと考え、主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

- ・豊かな体験活動の実践（異学年交流・福祉体験・ボランティア活動）
- ・道徳教育の充実
- ・人権メッセージへの応募
- ・人権教育を意識した学校・学級（いいところ発見「きらり賞」・心の声アンケートなど）

### 2 実践内容

#### (1) 豊かな体験活動の実践

##### ア とも遊び・あおぞら班活動（縦割り集団活動の実施）

毎週水曜日、昼休みと清掃時間をあてて、ロングの昼休みとし、児童の豊かな体験活動を推進してきた。

「とも遊び」では、クラスごとに遊びを決めて楽しく遊びを行っている。また「あおぞら班活動」では地区ごとの縦割り班を13班編成し、リーダーとなる6年生を中心として、鬼ごっこやドッジボールなどで遊んでいる。

##### イ さわやかマナーキャンペーンの実施（あいさつ運動）

年に10回、さわやかマナー週間を設け、東西の昇降口前であいさつ運動を行っている。当番のクラスと運営委員会の児童が、PTA専門委員と一緒に登校してくる児童に元気に挨拶している。

##### ウ さわやかマナーキャンペーンの実施（環境ボランティア）

11月にあおぞら班の縦割り集団で、校庭や通学路、学校から近い城址公園やひやっぴょうち公園の落ち葉拾いや、ゴミ拾いを実施した。

##### エ 地域の方々との交流

###### (ア) 助小学区大運動会

本校の運動会は、地域の方々とともにやっている。数多くの地域種目があり、各学年ごとに地域の方と楽しく競技に参加した。

###### (イ) 学校子ども会

本校の児童をおおよそその地区ごとに縦割り班に編成し、地域のコミュニティセンター主催のもと、年に3回各班ごとに様々な遊びを行った。



〈あおぞら班活動〉



〈さわやかマナーキャンペーン〉



〈学校子ども会〉

(ウ) 福祉体験の実践（5年生）

介護老人施設「さくら日立」に5年生が出向き、お年寄り  
と交流したり、歌や踊りを披露したりした。

(2) 道徳教育の充実及

各学年とも、めざす児童像にむけて、道徳の時間と他教科や他領域との関連を図りながら、道徳教育を進めている。教室には、道徳コーナーや「あったかい木」のコーナーを設け、道徳的心情や実践意欲を育てるための環境を整えている。また、年に1回は道徳の授業公開を義務づけていて、保護者や地域の方に参観してもらっている。

(3) 人権メッセージへの応募

高学年の児童が人権メッセージに取り組んだ。各学級から良いメッセージを選び、県の人権メッセージに応募したり、人権コーナーに掲示したりした。

(4) 人権教育を意識した学校や学級での取り組み

学級活動や授業の中で、ペアや小グループ、クラス全体で、自分を表現する場や友達に意見をもらう場を設定することで、互いのよさを認め合い、自己肯定感を高められるようにした。短学活に友達の良いところを発表することで、一人一人の良さに気付かせる場面を設定している。

また、昨年度より学校賞として「きらり賞」を設定し、友達の頑張っている姿を見取り、毎月数名ずつ校長先生から賞状が授与される取り組みが行われている。それにより、友達の良いところに目を向けられる児童が着実に増えてきている。



〈さくら日立訪問〉



〈道徳・あったかい木  
コーナー〉

3 成果

- ・ 異学年が一緒に遊んだり、関わり合ったりすることにより、上級生が下級生の面倒を積極的にみる姿が見られるようになった。学年の違う児童との関わり合いにより、友達や下級生に対して思いやりの気持ちをもって接することができるようになりつつある。
- ・ 学校子ども会やお年寄りとの交流では、少子化社会や地域のつながりが希薄になりつつある中で、世代の違う人々と自分の思いを通わせ、相手のことを考えて行動することの大切さを実感する良い機会となった。
- ・ あいさつ運動やさわやかマナーキャンペーンでは、地域のために自分たちができることは、進んで行おうという気持ちが高まり、進んで元気なあいさつを行おうとしたりゴミを拾おうとしたりという意識が芽生えてきている。
- ・ 人権メッセージの作成や良いメッセージの校内掲示をすることで、友達の思いに気付いたり人権についての意識を高めたりすることができた。

II 今後の課題

- ・ 児童が様々な体験を通して、思いやりの心や助け合いの心をさらに育て、学校生活の場で人権教育の充実を図っていく。
- ・ 家庭や地域においても人権に対する意識を高められるよう、連携や啓発活動に努めていく。

III 人権コーナーの設置の様子

